

FPG

Financial Products Group

We're true professionals

2014年9月期 第3四半期

決算説明資料

(2013年10月-2014年6月)

株式会社FPG

(code:7148)

東証1部



2014年7月

P2	2014年9月期 第3四半期 業績の総括
P3	2014年9月期 第3四半期 業績ハイライト(連結)
P4	各四半期の売上高の推移について
P5	2014年9月期 第3四半期レビュー
P6~7	2014年9月期 第3四半期 トピックス
P8	2014年9月期 第3四半期 営業概況
P9~10	2014年9月期 第3四半期 タックス・リース・アレンジメント事業の状況
P11	2014年9月期 第3四半期 出資金に含まれる手数料について
P12	2014年9月期 第3四半期 財務ハイライト(連結)
P13	2014年9月期 第3四半期 損益計算書
P14	2014年9月期 第3四半期 貸借対照表
P15	2014年9月期 配当予想
P16	2014年9月期 連結通期業績予想
P17	2014年9月期 連結通期業績予想について
P18	新株式発行及び株式売出しの実施概要
P19	収益構造の多角化に向けた取り組み
P20	事業概略図 収益構造の多角化に向けた取組み

2014年9月期 第3四半期 業績の総括



2014年9月期 第3四半期 業績ハイライト (連結)

企業収益の改善やアベノミクスの成長戦略の一つである、来年度からの法人実効税率の段階的引き下げについての政府方針実現期待を背景に、業績好調な顧客(投資家)からの需要が強く推移した結果、出資金販売額は、29,994百万円(前年同期比63.5%増)、売上高は4,797百万円(前年同期比68.5%増)と大きく伸長した。

営業利益は、組成・販売コスト、人員増強等のコストが増加したが、売上の増加が当該コストを吸収し、2,736百万円(前年同期比85.2%増)、経常利益も2,498百万円(前年同期比84.2%増)と大幅な増益を達成した。また、資金調達力の拡大により、航空機を中心に積極的に組成を行った結果、オペレーティング・リース事業の組成金額は、88,026百万円(前年同期比88.5%増)となった。

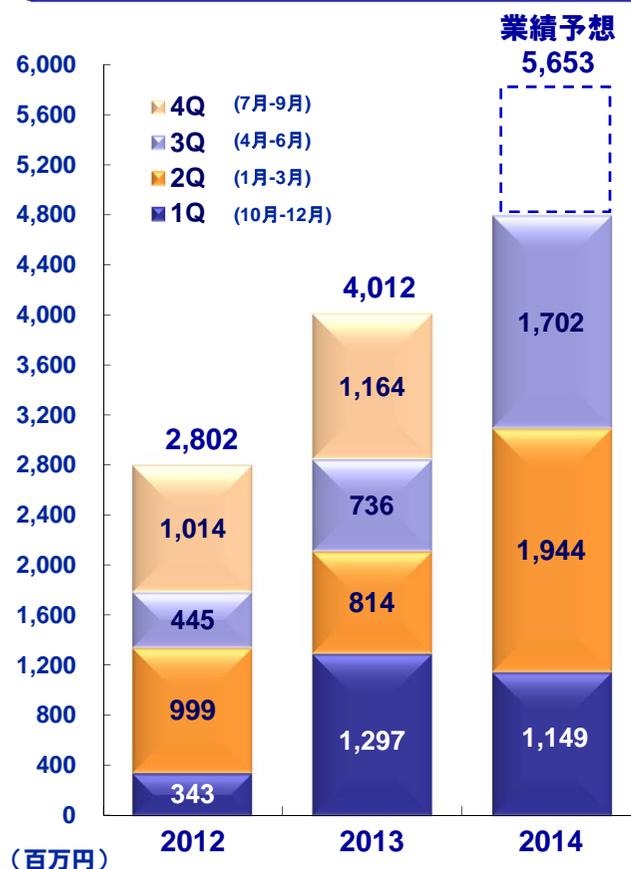
【百万円】	2013年9月期 第3四半期 10月～6月	2014年9月期 第3四半期 10月～6月	対前年 同期 増減	対前年 同期 増減率	2014年9月期 通期業績予想 (修正後)	通期予想 進捗率
	実績(連結)	実績(連結)				
売上高	2,847	4,797	1,949	68.5%	5,653	84.9%
営業利益	1,477	2,736	1,259	85.2%	3,022	90.6%
経常利益	1,356	2,498	1,141	84.2%	2,778	89.9%
四半期(当期) 純利益	817	1,519	702	85.9%	1,700	89.4%
リース事業組成 金額	46,689	88,026	41,337	88.5%	158,610	55.5%
出資金販売額	18,348	29,994	11,646	63.5%	34,864	86.0%

※ 2014年9月期通期業績予想の数値は、本年7月14日に公表済みの修正数値を記載している。

各四半期の売上高の推移について

投資家がリース事業に出資するか否かの意思決定は、投資家自身の業績動向が判明する決算月近くに行われる傾向があるため、当社の売上高は、当社案件に投資していただく投資家の決算月(9月・3月決算)が集中する**当社の第2四半期及び第4四半期に偏重する傾向**がある。

しかしながら、当四半期においては、予想以上に旺盛な投資家からの強い需要に対応するため、第4四半期に販売予定であった出資金を、一部前倒して販売したこと等から、現時点では、第4四半期よりも第3四半期に偏重する見通しである。



単位：百万円	第1四半期 会計期間	第2四半期 会計期間	第3四半期 会計期間	第4四半期 会計期間	通期
	10月から12月	1月から3月	4月から6月	7月から9月	合計
2012年9月期					
売上高	343	999	445	1,014	2,802
売上高割合	12.2%	35.7%	15.9%	36.2%	100%
2013年9月期					
売上高	1,297	814	736	1,164	4,012
売上高割合	32.3%	20.3%	18.4%	29.0%	100%
2014年9月期					
売上高	1,149	1,944	1,702	-	5,653 (通期予想 修正後)
売上高割合	20.3%	34.4%	30.1%	-	100%

※ 2013年9月期第2四半期より連結財務諸表を作成しており、それ以前の数値は参考値として個別業績の数値を記載している。また、売上高は、タックス・リース・アレンジメント事業、不動産関連事業、保険仲立人事業、M&Aアドバイザー事業、証券事業及び投資顧問事業等の合計金額である。

2014年9月期 第3四半期レビュー

営業面

組成・販売面

▶ **良好な販売環境**
好調な企業業績及び法人税率の引き下げ期待を背景に、顧客(投資家)からの出資金に対する需要は引き続き強く推移。加えて、リピーターの増加により出資金販売額は伸張。

▶ **販売ネットワークの拡大**
会計事務所及び地銀を中心とした金融機関との販売ネットワークの開拓を進め、当四半期末において1,723の会計事務所、地銀等65行、証券会社14社と提携。販売ネットワークの拡大により、出資金販売が伸張。

▶ **アメントム社との日本型オペレーティング・リース第1号案件の組成**
アメントム社との資本業務提携後、航空機を対象にした日本型オペレーティング・リース第1号の組成を行い、当該出資金の販売を完了。

▶ **コミットメントライン融資枠が拡大、405億円へ**
当四半期においては、第四銀行と15億円(2014年4月)のコミットメントライン契約を締結し、当四半期末時点の資金調達枠は405億円へと拡大。

▶ **新株式発行及び株式売出し(P18参照)**
2014年5月30日、新株式発行及び株式売出しについて決議。

▶ **個人投資家向け会社説明会の実施**
2014年6月30日、モーニングスター社主催 個人投資家向け合同IR説明会において、「事業概況と今後の経営戦略」について説明。(会場:東京証券会館8階ホール:東京都中央区日本橋茅場町1-5-8、参加者:288名)

▶ **第一投資顧問の買収、投資顧問業への進出**
2014年4月30日、第一投資顧問株式会社の全株式を取得し子会社化。投資顧問業へ進出。
2014年7月1日、株式会社FPG投資顧問に商号変更し、同社ホームページを開設。

その他取組み

人材

▶ **積極的な人材採用による営業部門の強化**
前第3四半期期末75名(連結)⇒当第3四半期期末93名(連結)へ(前年同期比18名増)。

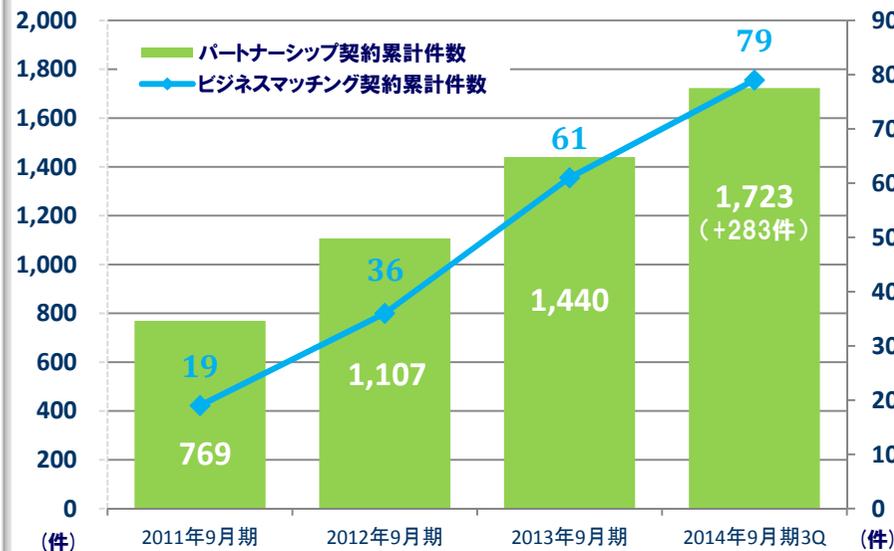
その他

2014年9月期 第3四半期 トピックス

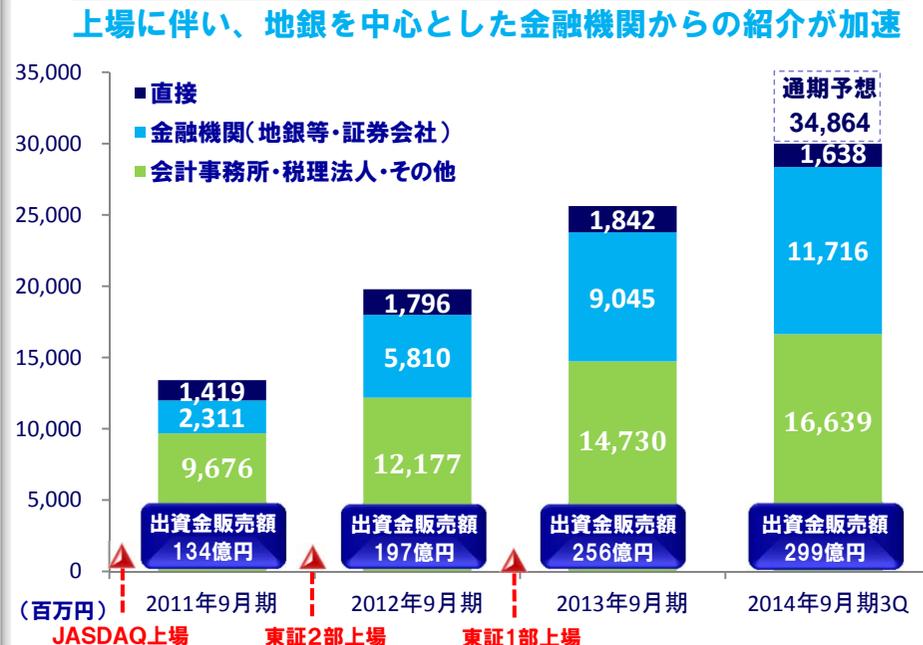
- ◆全国の会計事務所とのパートナーシップ契約を積極推進、販売網を拡充
- ◆金融機関、特に地銀との提携（ビジネスマッチング契約）により投資家紹介が加速



会計事務所とのパートナーシップ契約件数と金融機関とのビジネスマッチング契約件数（累計）



会計事務所ルートと金融機関ルートによる出資金販売額の推移



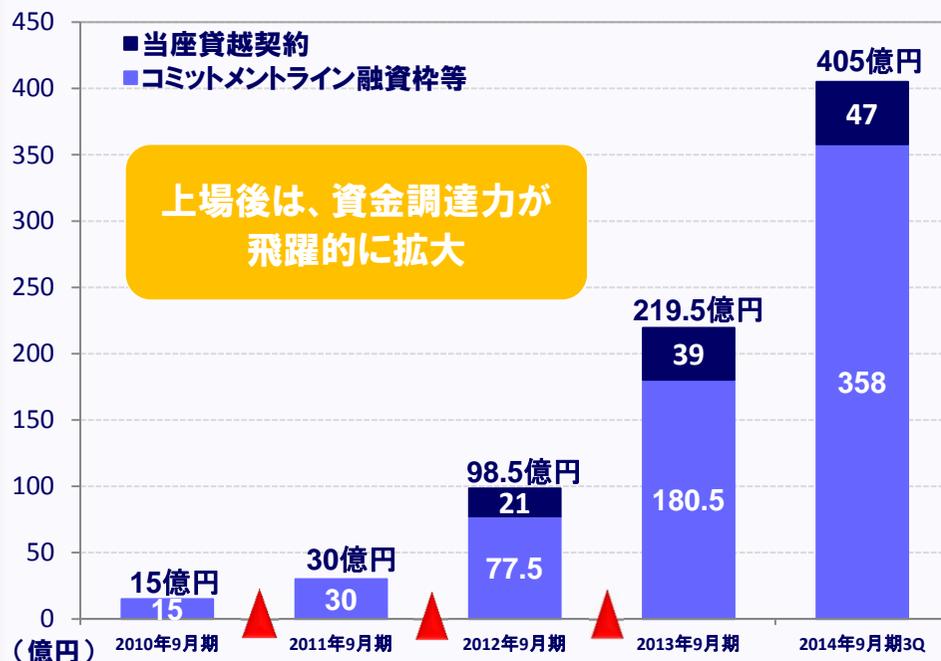
2014年9月期 第3四半期 トピックス

▶ 資金調達力の拡大

前期末219.5億円であった資金調達枠は405億円へと飛躍的に拡大。

コミットメントライン融資枠契約を拡大（5億円以上）

- ◆ 2013年10月 三井住友銀行(シンジケート)：97億円（純増43.5億円）
- ◆ 2013年10月 みずほ銀行（シンジケート）：69億円（純増40億円）
- ◆ 2013年11月 千葉銀行（シンジケート）：14億円（純増5億円）
- ◆ 2014年 2月 東京スター銀行：25億円（純増15億円）
- ◆ 2014年 3月 三菱東京UFJ銀行（シンジケート）：63億円（純増32億円）
- ◆ 2014年 3月 三菱東京UFJ銀行：30億円（不動産関連事業への極度枠設定）
- ◆ 2014年 4月 第四銀行：15億円（純増7億円）



上場後は、資金調達力が
飛躍的に拡大

2010年9月 JASDAQ上場
2011年10月 東証2部上場
2012年10月 東証1部上場

▶ 案件組成の拡大（航空機）

新規賃借人との取引を開始、リピート案件を獲得。

リピート案件として、欧州一流航空会社を賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年10月17日
- リース対象物件：A380型 航空機1機

欧州大手航空機リース会社を賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年10月29日
- リース対象物件：A320-200型 航空機1機

リピート案件として、アジア一流航空会社を賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2013年12月18日
- リース対象物件：B737-800型 航空機1機

リピート案件として、欧州大手リース会社を賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始。

- リース開始時期：2014年4月7日
- リース対象物件：A320-200型 航空機1機

新規案件として、資本業務提携先のアメンタム社と欧州大手チャーター会社を賃借人とする航空機1機を対象としたリース事業を開始（第1号案件）。

- リース開始時期：2014年5月30日
- リース対象物件：B737-800型 航空機1機

2014年9月期 第3四半期 營業概況



◆ 好調な販売 出資金販売額は過去最高の299億円へ、前年同期比63.5%増へ

販売の状況

信用力・知名度の向上により、会計事務所や金融機関（地銀・証券会社等）からの顧客（投資家）紹介が一段と進み、出資金販売は総じて好調に推移した。また、好調な企業収益、来年度からの法人税率の引き下げ期待などから、業績好調な投資家（顧客）からの引き合いは非常に強く、一部大口出資や既存顧客からのリピートニーズとあいまって、出資金販売額は、前年同期比63.5%増の299億円と過去最高を記録した。

◆ 航空機案件を中心とした積極的な組成により、組成金額は880億円へ

組成の状況

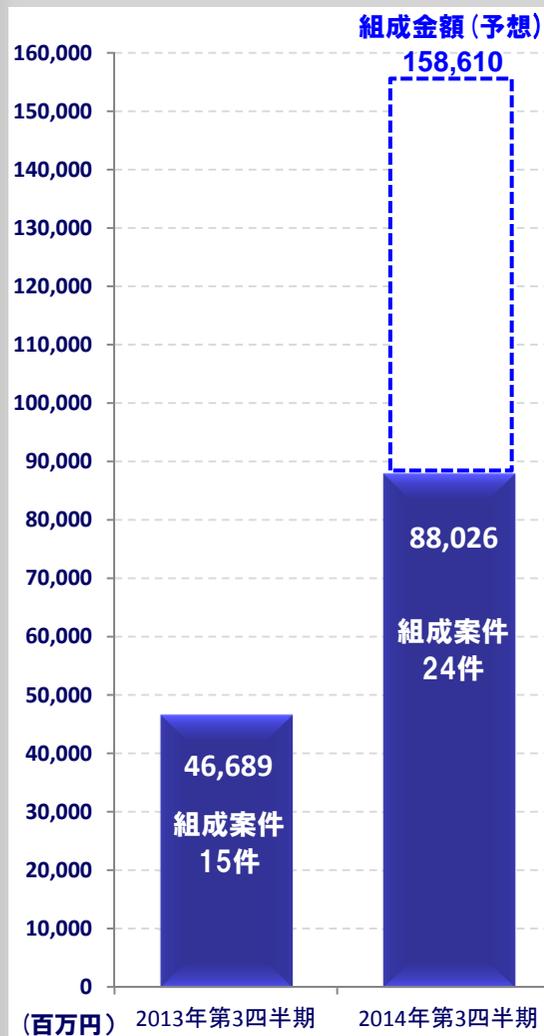
当第3四半期においては、大手海運会社や欧州大手リース会社からの航空機案件のリピート案件の獲得に加え、昨年11月に資本業務提携を行った、アイルランドに本社を置く独立系の大手航空機リースマネジメント会社であるアメントム社と欧州大手チャーター会社を賃借人とする航空機を対象とした日本型オペレーティングリース第1号案件の組成を行うなど積極的に行った結果、組成金額は、前年同期比88.5%増の880億円となった。

(百万円)		2013年9月期 3Q	2014年9月期 3Q	増減	増減率	2013年9月期 通期実績
リース事業組成金額		46,689	88,026	41,337	88.5%	98,395
出資金販売額		18,348	29,994	11,646	63.5%	25,617
	船舶	136	1,221	1,085	795.2%	845
	コンテナ	8,925	10,847	1,922	21.5%	13,645
	航空機	9,287	17,925	8,637	93.0%	11,126
購入社数		420	613	193	46.0%	646
タックス・リース・アレンジメント事業 売上高		2,690	4,326	1,635	60.8%	3,747

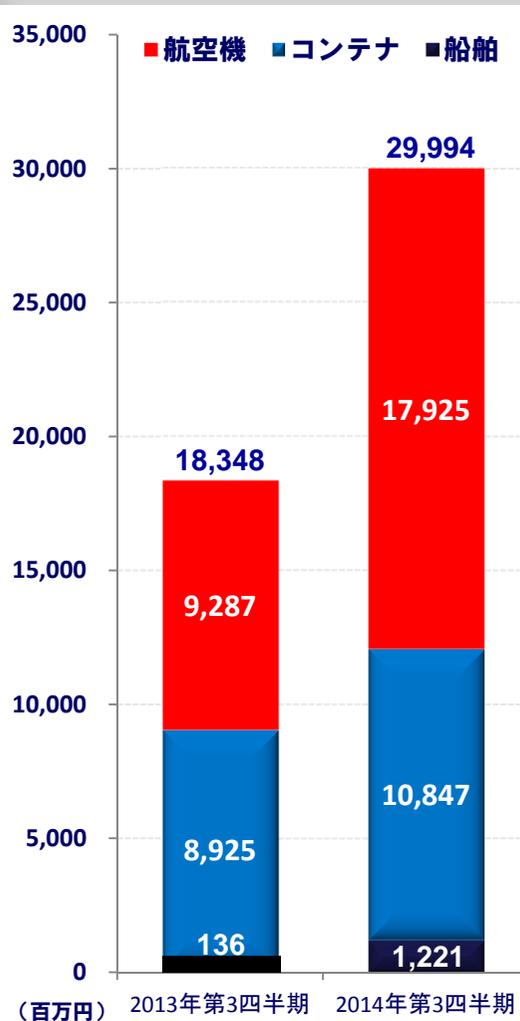
2014年9月期 第3四半期 タックス・リース・アレンジメント事業の状況 **FPG**

Financial Products Group

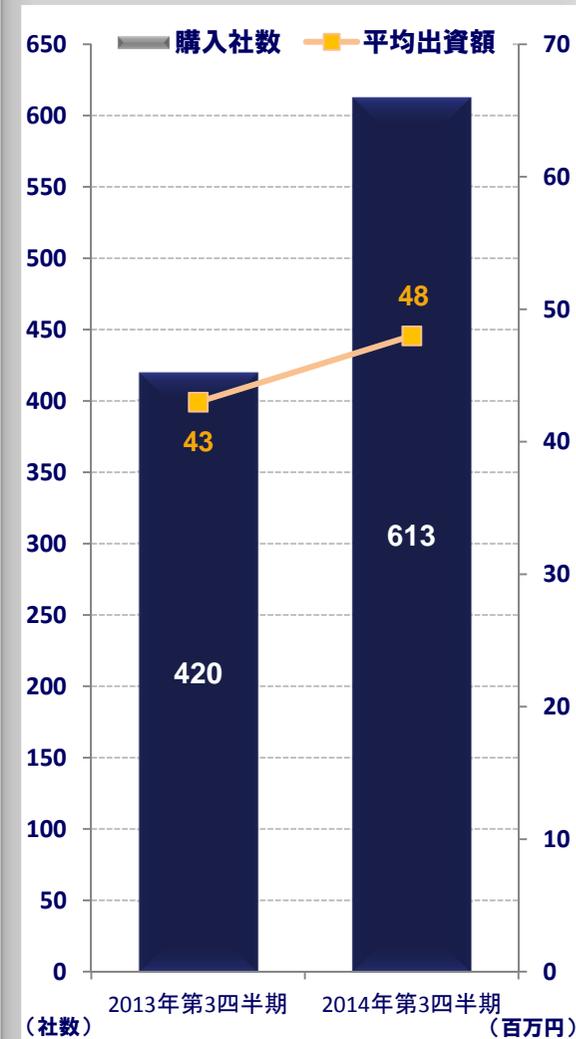
オペレーティングリース組成総額



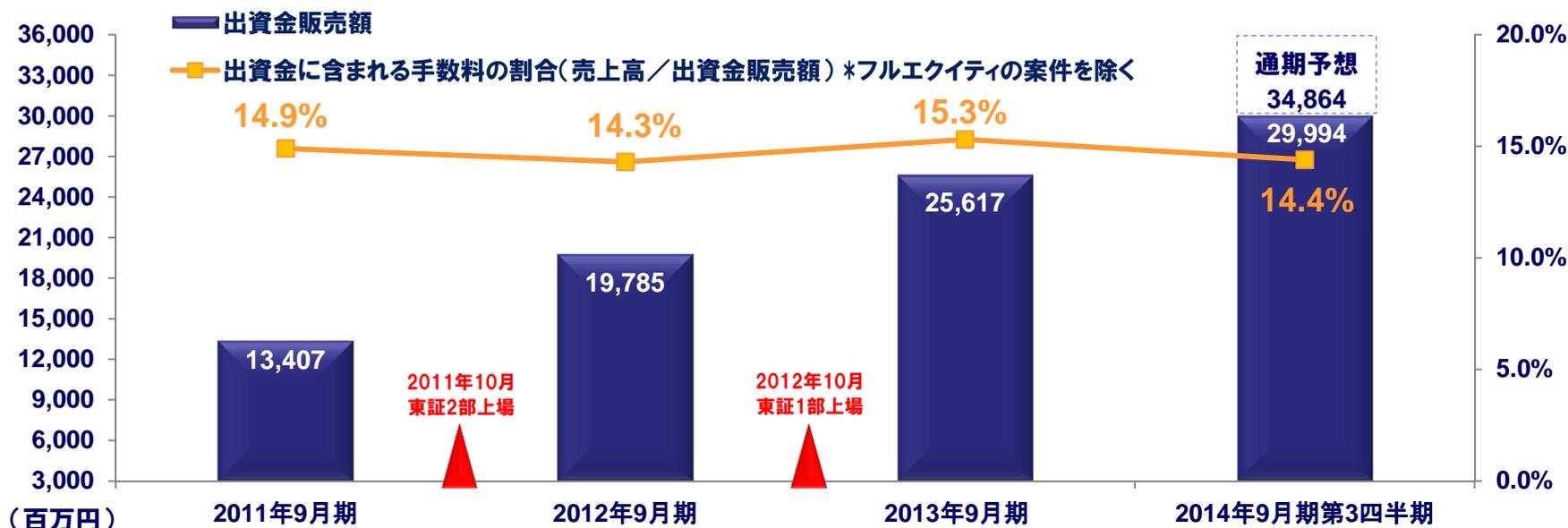
リース物件別出資金販売額



購入社数



2014年9月期 第3四半期 出資金に含まれる手数料について



(百万円)	2011年 9月期	2012年 9月期	2013年 9月期	2014年 9月期 第3四半期
タックスリースアレンジメント 事業の売上高	1,926	2,665	3,747	4,326
出資金販売額	13,407	19,785	25,617	29,994
フルエクイティの案件を 除いた出資金に含まれる 手数料の割合 (売上高/出資金販売額)	14.9%	14.3%	15.3%	14.4%

*** フルエクイティ案件:**

通常、オペレーティングリース事業を組成する際、借入金及び出資金にて資金調達を行うが、フルエクイティの案件の場合、借入金を調達せず、すべて投資家からの出資金にて資金調達する。

出資金に含まれる手数料の推移

上場後は、信用力が格段に向上し、資金調達力が大幅に拡大。旺盛な投資家需要に応えるため、積極的に案件を組成。出資金に含まれる手数料については、概ね14%~15%台に推移しており、他の金融商品に比べ、高い収益性を維持している。

当第3四半期

当第3四半期においては、収益性の高い商品を確保し、積極的な組成・販売により、高い収益性を維持。

2014年9月期 第3四半期 財務ハイライト (連結)



2014年9月期 第3四半期 損益計算書

(百万円)	2013年 9月期 第3四半期	2014年 9月期 第3四半期	増減
売上高	2,847	4,797	1,949
売上原価	446	668	222
売上総利益	2,401	4,128	1,727
販売管理費	924	1,392	467
営業利益	1,477	2,736	1,259
営業外収益	43	222	179
営業外費用	163	460	296
経常利益	1,356	2,498	1,141
特別損失	0	4	4
税引前四半期純利益	1,355	2,493	1,137
法人税等合計	538	973	435
四半期純利益	817	1,519	702

1 売上高 4,797百万円 (+1,949百万円)
 (タックス・リース・アレンジメント事業売上高) 4,326百万円
 (不動産関連事業売上高) 115百万円
 (保険仲立人事業売上高) 187百万円
 (M&Aアドバイザー事業売上高) 7百万円
 (証券事業売上高) 145百万円

2 売上原価 668百万円 (+222百万円)
 案件組成コスト 94百万円(前四半期 98百万円)
 顧客紹介者への支払手数料 570百万円(前四半期347百万円)
 →出資金販売が好調だったことから、支払手数料は増加。

3 販売管理費 1,392百万円 (+467百万円)
 業容拡大のため、営業部門を中心に積極的に人材採用を進めたこと、また業容拡大により、本社を移転し、執務室使用面積が拡大したことに伴う賃料の増加等から、販売管理費は増加。

4 営業外収益 222百万円(+179百万円)
 リース開始後に顧客(投資家)に商品出資金を販売した場合、経過分の利息を顧客(投資家)から徴収し、受取利息として営業外収益に計上している。当第3四半期累計期間においては、商品出資金の受取利息として158百万円、組成不動産の不動産賃貸料55百万円の計上等により222百万円(前年同期比179百万円増)となった。

5 営業外費用460百万円 (+296百万円)
 コミットメントライン契約の拡大による支払手数料の増加、また、資金調達増加に伴い、支払利息も増加したこと等から、460百万円(前年同期比296百万円増)となった。

2014年9月期 第3四半期 貸借対照表

資産 (百万円)	2013年9月期 期末	2014年9月期 第3四半期末	増減
流動資産	19,185	19,871	686
現金及び預金	3,840	3,911	71
商品出資金	13,436	11,237	△2,198
組成用不動産	1,208	2,614	1,406
その他 流動資産	700	2,107	1,407
固定資産	1,055	1,700	645
資産合計	20,240	21,572	1,332

負債 (百万円)	2013年9月期 期末	2014年9月期 第2四半期末	増減
流動負債	15,355	10,062	△5,293
短期借入金等・社債	12,306	6,197	△6,108
前受金	1,838	1,706	△131
その他 流動負債	1,210	2,157	947
固定負債	395	1,433	1,037
長期借入金・社債	330	1,270	940
その他 固定負債	65	163	97
負債合計	15,751	11,495	△4,255

純資産 (百万円)	2013年9月期 期末	2014年9月期 第2四半期末	増減
資本金	851	3,070	2,219
資本剰余金	801	3,020	2,219
利益剰余金	2,833	3,972	1,138
自己株式	△0	△0	△0
為替換算調整勘定	2	13	11
純資産合計	4,489	10,077	5,587
負債純資産合計	20,240	21,572	1,332

1 商品出資金 11,237百万円 (△2,198百万円)
 旺盛な投資家需要により、商品出資金の販売が好調だったことから、商品出資金残高は減少した。

商品出資金の取得資金は主にコミットメントライン融資枠等の短期借入金で調達
 ↓
 商品出資金を販売
 ↓
 出資金販売代金の入金時に前受金が売上に計上される。



2 組成用不動産
 第2号案件(プラチナコート広尾)を販売中。

3 前受金 1,706百万円(△131百万円)
 商品出資金の減少(△2,198百万円)に伴い、前受金も131百万円減少した。

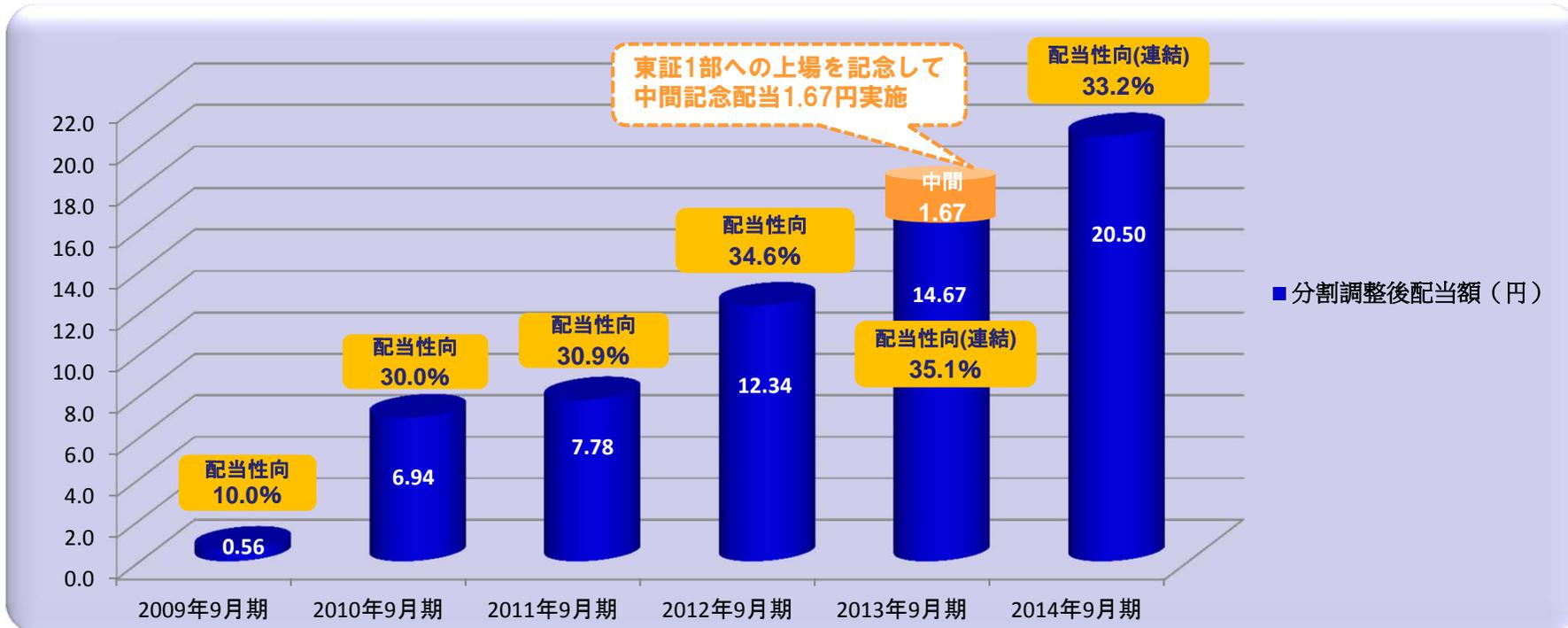
4 短期借入金等・社債 6,197百万円(△6,108百万円)
 公募増資及び第三者割当増資の調達手取金を、短期借入金の返済に充当したこと等から、大幅に減少した。

5 純資産 10,077百万円 (+5,587百万円)
 四半期純利益1,519百万円の計上に加え、公募増資及び第三者割当増資の実施等により、資本金及び資本剰余金が増加したこと等によるものである。この結果、自己資本比率は、46.7%と大幅に改善された。

▶ 期末配当(予想)を4円増配 16.50円→20.50円へ

経営基盤の強化と事業機会を確実に捉えるために、十分な内部留保を維持することに留意しつつ、株主の皆様へ適切な利益を還元することが配当政策上重要であると考えており、業績の状況や将来の事業展開などを総合的に勘案し、目標連結配当性向を概ね30%以上に設定。

◆2014年9月期期末配当(予想)16.50円→20.50円
年間配当予想は20.50円(連結配当性向33.2%)



(注1)株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の数値を記載。

(注2)2014年9月期の連結配当性向は、7月14日に公表した当期連結業績予想数値を前提としたものである。

2014年9月期 連結通期業績予想



2014年9月期 連結通期業績予想について

(百万円)	2014年9月期 第3四半期実績 (A)	2014年9月期 通期業績予想 (B)	第4四半期 予想 (B-A)	通期業績予想 進捗率
売上高	4,797	5,653	855	84.9%
営業利益	2,736	3,022	285	90.6%
経常利益	2,498	2,778	279	89.9%
当期純利益	1,519	1,700	180	89.4%
リース事業組成金額	88,026	158,610	70,583	55.5%
出資金販売額	29,994	34,864	4,869	86.0%

当第3四半期連結累計期間においては、投資家の強い需要を背景に、出資金販売額が、計画を上回る水準で推移したことから、本年4月16日に公表した通期予想の業績予想につきまして、上記の通り、修正いたしました。(平成26年7月14日公表済み)

なお、当第3四半期累計期間の実績は、通期の予想と比べ、その進捗率が高くなっていますが、これは主に第4四半期に販売予定であった出資金の一部を前倒して販売したことによるものです。

新株式発行及び株式売出しの実施概要

発行会社	株式会社 FPG	
公募売出し及び第三者割当	<ul style="list-style-type: none"> ・新株式発行株式数 ・割当先:大和証券 	<p>4,300,000株 900,000株</p>
売出人	HTホールディングス株式会社 谷村 真紀	<p>1,500,000株 504,000株</p>
発行価格及び売出価格	1株につき	890円
増加した資本金の額	2,218,528,000円	
資本金	3,070,890,087円 (平成26年6月30日現在)	
発行済株式総数	31,253,200株 (平成26年6月30日現在)	
目的	財務基盤の強化により、自己資本比率を向上させ、資金調達力の拡大を加速することで、リース事業及び不動産関連事業での案件組成金額の拡大を通じ、更なる業績拡大を図る	
資金使途	タックス・リース・アレンジメント事業における匿名組合契約に基づく権利の立替取得及び不動産関連事業における組成用不動産の取得を目的として調達した短期借入金の返済資金として6月末までに充当済	

収益構造の多角化に向けた取組み

▶ 投資顧問会社の買収、投資顧問業への進出

2014年4月30日、第一投資顧問株式会社の全株式を取得し、子会社化

2014年7月 1日、株式会社F P G投資顧問に商号変更・本社所在地の移転

当社グループのブランド力及び企業価値の向上

投資顧問会社の概要

1. 名 称 株式会社F P G投資顧問
2. 所在地 東京都千代田区丸の内2-7-2JPタワー29F
3. 役 員 代表取締役会長 谷村尚永
代表取締役社長 下村三郎
取締役 金澤末男
取締役 土岐大介
監査役 安田正敏
4. 資本金 249百万円
5. 設立年月日 昭和52年7月4日

新規事業への進出目的

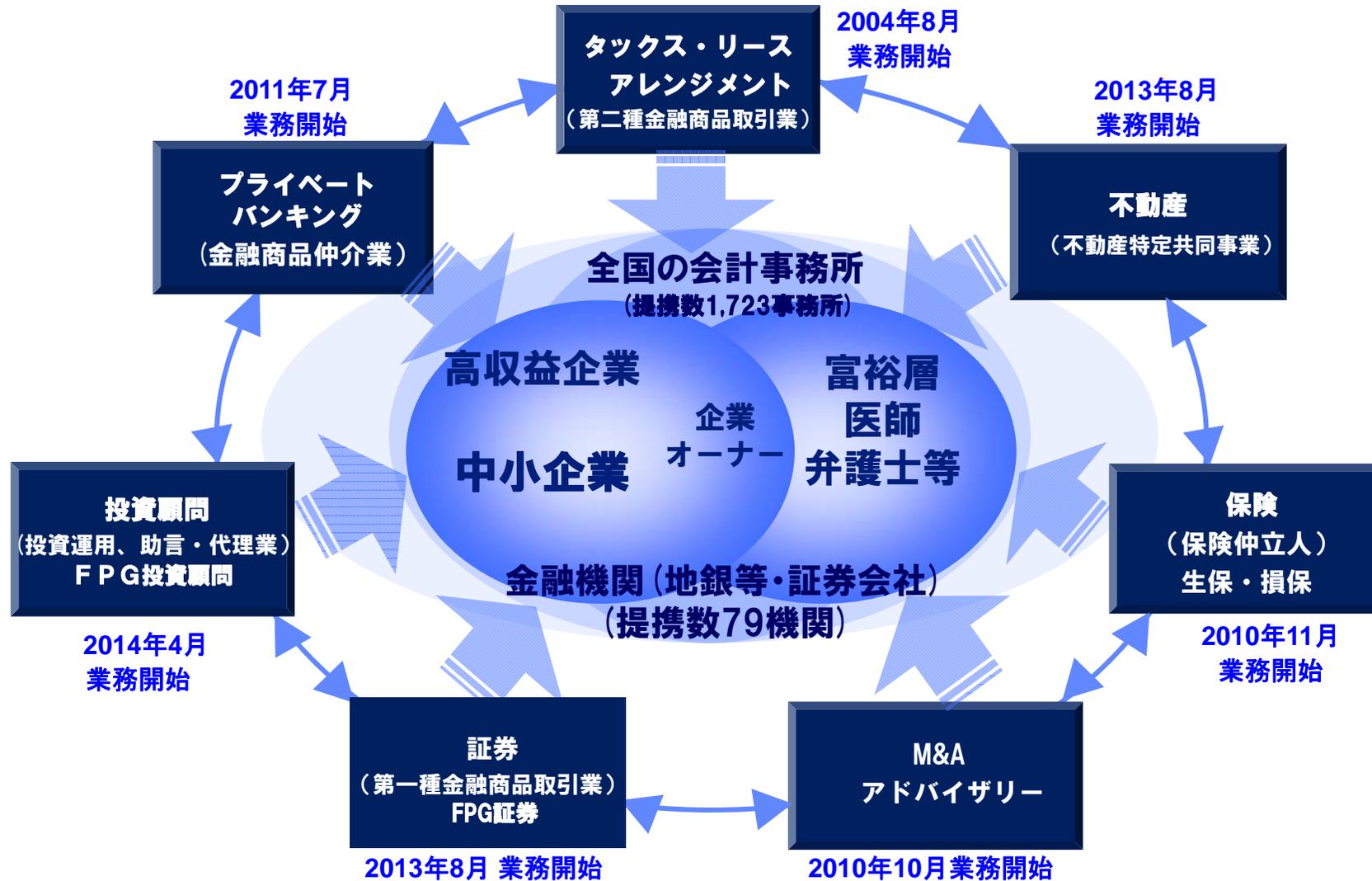
F P G投資顧問は、顧客との投資一任契約に基づき、顧客の財産運用を行う投資運用業、顧客の投資判断に関する助言を行う投資助言・代理業として投資顧問業を遂行している。

当社の主な顧客である業績好調な中小企業、富裕層等に対し、提供できる金融商品・サービスの範囲が拡大し、真のプロフェッショナルとしてのワンストップ型総合金融サービス会社として、顧客ニーズに対応した金融商品の提供の加速化を図る。

既存事業との相乗効果の最大化

事業概略図 収益構造の多角化に向けた取り組み

高収益なオーナー企業及び富裕層に対して、各種金融商品・サービスを提供するワンストップ型総合金融サービス会社を目指す



- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社FPG（以下、弊社）の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されております。
- これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき弊社が判断した予測です。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問い合わせ先】

株式会社FPG IR担当

TEL (03) 5288-5691

URL <http://www.fpg.jp>